

創刊号発刊に向けて

純粋アカデミアが刊行する学術誌と、民間シンクタンクが刊行する機関誌では、当然、その果たすべき役割は異なります。

純粋アカデミアが刊行する学術誌は、研究者同士が自らの研究成果を刊行することで、学問研究の水準を向上させることを第一義的な目的としています。読者はあくまで研究者であり、しかも、多くの論文は極度に専門領域化した分野に限定したテーマを取り扱っています。論文によっては、読者の数は世界的にみても数名しかいないだろうと予測できるようなそんな論文でも、オリジナリティがある限り、立派な学術論文として高く評価されるのが学術誌なのです。

しかし、当社のような民間シンクタンクが刊行する機関誌は、読者が数人の専門研究者だけというのでは本来の役割は果たせないと思われれます。なぜなら、その主たる目的が、純粋アカデミアと政策立案当局や企業経営の実践者をつなぐことにあるからです。学術誌はほとんどの場合、掲載論文に実用性があるかどうかの問題にされることはありません。しかし、シンクタンクの機関誌は、展開される論文が何らかの意味で政策当局や企業経営者などの実践者の参考になるという側面を持っていなければならないでしょう。実践者の目から見ても、まったく理解不可能な専門研究者用の高度学術論文というのではその本来の役割は果たせないからです。

当社（三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社）は、経済社会、政治、公共経営、環境問題などの政策研究を担当する「政策研究部門」と、人事政策、マーケティング、財務、経営戦略、コンプライアンス、CSRなど企業経営にかかわる諸問題を取り扱う「コンサルティング部門」、国際的な諸問題を扱う「国際事業部門」、マクロ経済を研究する「調査部門」を併せ持つ総合シンクタンクです。当然のことながら、研究者は各部門の研究者相互の研究成果を公表しあう「場」を必要としていますし、外部の研究者との交流も必要です。

そのような内外の要望に応え、当社はこの度、機関誌『季刊 政策・経営研究』を創刊する運びとなりました。『季刊 政策・経営研究』は当社研究スタッフやコンサルタントのみならず、広く社外研究者の寄稿論文を掲載し、それぞれの分野の研究者が相互に刺激しあう「場」になることを目指しています。純粋アカデミアの最先端の研究成果を採り入れつつ、社会に分散する各分野の知をネットワークすることで、研究者間、研究者と実践者とのインタラクティブな対話を加速したいという考えからです。

今後、本誌が、活発な知的インタラクションの場としてお役に立てるよう、毎号、時代の要請に応えうるテーマを特集したいと考えております。ちなみに、創刊号においては、「ユーザ中心のコンテンツ政策」をテーマとしました。ウェブ進化が加速する中、従来の産業側、プロフェッショナルの論理ではなく、草の根のコンテンツ供給者やユーザーの立場に立った新しいコンテンツ産業のあり方とその将来について議論が展開されています。

次号以降も、テーマ設定に意を尽くし、各分野の研究者のお役にたてる情報を提供する決意ですので、読者の皆様におかれましては、今後とも、論文寄稿、本誌掲載論文への反論やコメントなど、本誌への積極的な参画をお願いいたします。

